

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201417		
法人名	フロック有限会社		
事業所名	グループホーム光ヶ丘の里		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘2-25-41		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成22年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に、利用者の意思を尊重し、一人ひとりのペースに合わせて過ごせるような支援を心掛けている。特に女性の利用者が多いので、調理・配膳・片付け・買い物・洗濯・掃除等の家事を利用者と一緒に行うようにしている。

また、利用者がいつも笑顔で安心して過ごせるように、スタッフが一緒に話をする時間を多くできるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、全面バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保されている。玄関外にベンチが設置されており、気軽に外の空気を楽しむ事が出来ると共に、敷地内に家庭菜園があり、苗の手入れや野菜の収穫等、入居者の生活の活性化が図られている。柏市グループホーム連絡会にて、コンサートやバス旅行等の行事が実施されており、戸外活動・外部との交流が行われている。施設理念に「我が家」と掲げ、個人の尊重に努めていると共に、グループホームの特性を活かした柔軟且つキメ細かいサービスを提供しており、入居者の自由な生活・本人らしい生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族にしかできないこと、スタッフは家族の一員として“その人らしい暮らし”を見守ります」を理念とし、その理念をスタッフ同士で共有しながら、実践につなげている。	「我が家」という言葉を用いて、入居者のその人らしい暮らし・家庭的な環境等を主眼とした理念を掲げており、理念に基づくサービスの提供に努めている。理念においては、会議にて都度確認を行い、職員全員が共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会行事（花見・夏祭り・餅つき等）に参加し、交流を深めている。また、町会の踊りの会の方々には、2ヶ月に1回訪問して頂き、踊りを披露して頂くだけではなく、利用者様も一緒に踊りを楽しまれている。	散歩や外出時に、近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれていると共に、気軽に訪問してもらえるよう施設を開放している。餅つき・夏祭り・運動会等の地域行事には積極的に参加しており、地域との交流を図っている。また、運営推進会議の時に食事会や行事を行い、交流を深める工夫をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会長や民生委員の方に、高齢者の方や話し好きな方、ホームを見学したい方がいた場合は、「気軽に来所してください。」と話して頂くようお願いをしている。また、介護されている方などから、問い合わせがあった場合にも、丁寧に対応するように心掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などについて報告や話し合いを行い、できる限りそこでの意見を取り入れていくようにしている。	町会長・民生委員・地域包括支援センター職員・入居者・家族・職員等を構成員として、年に3回、運営推進会議が行われている。会議では、施設の活動報告を行い、施設理解の促進に努めている。また、運営推進会議を地域との交流の機会と考えており、積極的に意見交換をし、サービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会の定例会等で、柏市役所担当者から指導を受けたり、直接連絡をとるなどしている。	市に対して、業務における相談や報告等を行っており、密に連絡している。また、グループホーム連絡会にて、市と意見・情報交換をしており、共にサービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。		

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日中の施錠はしていない。	身体拘束排除・高齢者虐待防止等のマニュアル整備や研修の実施を行っており、職員全員が意義を理解している。センサーチャイムにて、安全確保しながら、日中は玄関を施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待について話し合いをしたり、事業所内に虐待防止のポスターを掲示し、虐待が起きないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様個々の必要性について、日頃からスタッフ同士や家族と話し合い、日常生活の自立支援をするように心がけている。また、現在は成年後見人制度を利用されている方はいないが、以前利用されている方が入居していた時に学ぶ機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、不安や疑問点がある場合には、納得頂けるまで話をしている。また、改定を行う際には、家族に説明する機会を設け十分な説明を行い理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対しては、個々に話を聞くようにし、解決策が必要な場合にはミーティングで話し合いを行っている。また、柏市介護支援相談員訪問時に利用者や家族から寄せられた意見・要望については、その後反映させるように努めている。	家族の面会時や電話連絡時に、直接意見・要望等を確認している。また、年1回、家族会を開催しており、家族からの意見を確認する機会を設けている。挙がった意見や要望においては、会議にて話し合い周知・検討し、適切な改善に努めている。家族を施設行事に招待し、交流を深めながら意見が言いやすいよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃からスタッフの意見や提案を聞く機会を設け、反映させるように努めている。	月に1回会議を開催しており、職員の意見・提案を確認している。また、会議に欠席する職員に対しては、事前に意見等を確認している。日々の業務において、管理者は個別に話し合う機会を設けており、個々の意見・要望・思い等を確認し、意見の言いやすい職場環境作りに努めている。	

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や個々のスタッフの努力や実績、勤務状況を把握するように努め、なおかつ各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や個々のスタッフのケアの実際と力量を把握するように努め、外部研修の受講や内部研修の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の研修会や勉強会・交流会・見学会などに参加し、それらを参考にしながらサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時・入居後に本人から困っていること、不安なこと、希望などの内容を聞き、その内容をきちんと受けとめるように努め、信頼関係が築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学・面接時に家族等から困っていること、求めていることをよく聞き、きちんと受けとめるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当スタッフが本人や家族と相談のうえ、一番必要としている支援がグループホーム内での介護かどうか検討している。他のサービスの方が良いと思われる場合には、そちらのサービス利用をすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に語り、泣いたり、笑ったりお互いに支えあう関係を築くようにしている。		

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から本人に対する悩みを聞いたり、どのような支援が良いか相談したり、お互いに助け合い、協力しながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望（買い物や墓参り等）が叶うように、家族と相談し、家族対応や職員対応を検討し、実施できるよう支援している。友人への電話・手紙の投函等もできるよう支援している。	入居者の馴染みの人の面会・来訪等があり、馴染みの人との関係の継続を支援している。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続にも配慮している。嗜好・生活歴の調査や日頃の会話等にて、本人の馴染みの人や場所の把握に努めており、希望に応じて個別対応し、適切な支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの性格を把握し、利用者同士が良い関係を築けるように配慮している。また、話が弾むようにスタッフが一緒に話をしたり、家事をしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、相談や問い合わせがある場合は、その都度対応している。		

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えることができる方には、時間を作り話を聞いている。困難な方の場合には、本人の立場に立ち、検討するようにしている。	入居時に本人や家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。必要に応じて、医師の意見書や他事業所からの情報提供等を受け、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日々の生活状況を記録し、定期的に入居者の情報表を更新しており、新しい情報を職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族等から生活環境や今までの暮らし方を聞いている。入居後も家族との話や本人との会話から、以前の暮らしぶりを把握するように努め、入居後のサービス計画に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々の利用者の心身状態を把握し、一日の過ごし方に配慮している。また、持っている力を引き出す等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者毎に作成した介護実践計画のチェックを毎日行い、それを基に月1回モニタリングを行っている。モニタリングでのスタッフの意見やアイデアを反映させながら、現状にあった計画作成に努めている。また、ご家族への現状報告や意見交換を随時行い、介護計画に反映している。	介護計画においては、本人・家族のニーズや希望を踏まえた上で、職員間で話し合いを行い、作成を行っている。介護実践計画を作成し、日々の様子から介護計画の評価ができるようになっており、介護計画のより効果的な見直しに繋がっていると共に、職員全員が介護計画を共有しており、現状に即した支援が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫等を個別に記録し、スタッフ間で情報を共有しながら、実践に活かしている。また、介護実践計画書を毎日チェックし、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望等に応じて、柔軟な対応をしている。		

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会行事に参加したり、町会の踊りの会にボランティアとして年に数回訪問して頂いている。月1回また、書道講師の方にボランティアに来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族通院で情報が必要な場合や入院時には、医療機関との情報交換を行っている。また、往診時には立ち会いのうえ、家族と連絡を取り、健康状態の把握に努めている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、希望に応じて職員が通院の付き添いを支援している。また、内科往診や歯科往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。協力病院を設置しており、緊急時・重度化における対応・医療に関する相談・往診の実施等密な協力体制が構築されている。非常勤職員に看護師がおり、適切な健康・衛生管理が行われていると共に、24時間連絡が取れるようになっており、緊急時における体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週2日以上、看護師が勤務し利用者の日常の健康管理や、スタッフとの情報の共有に努めている。また、看護師と電話での24時間オンコール体制を取っており、利用者が体調不良の際には相談をして、受診するなど適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、病院にて病院関係者と相談、連携を図り、できるだけ早期に退院できるように努めている。また、そのような状況に備え、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には本人・家族より終末期にどう過ごしたいかの聞き取りを行い、できること、できないこと等の説明を行っている。重度化した場合や終末期が訪れた際には、家族に意見を聞き、スタッフで検討会を開いている。さらに、家族へ当ホームでできることの説明を十分に行い、方針を共有しながら、その後の支援を行うようにしている。	終末期・重度化における施設方針・対応方法を明文化しており、契約時に説明・同意を得ている。終末期・重度化した場合は、本人の様子を見ながら医療機関・看護師・家族と話し合いを行い、本人・家族の意向に沿った支援ができるよう体制を整えている。また、必要に応じて医療機関や他サービスへの切り替えが円滑に行えるよう配慮している。	

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて全てのスタッフが対応できるように、緊急時対応マニュアルのもと、定期的に応急手当や初期対応について訓練を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもとに、利用者・スタッフが定期的に避難訓練を行っている。また、災害時には町会の方々へ協力して頂けるようお願いしている。	施設には、火災報知機・消火器・自動通報装置・非常持ち出し袋が設置されていると共に、複数の避難経路が確保されている。消防署の協力のもと、年2回消防避難訓練・消防研修等が実施されている。日頃から近隣に対して協力の呼びかけを行っており、緊急時・非常災害時における協力体制の構築が進められている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように心がけている。	入居者に対して、常に尊敬の念を持ち、その人に合った言葉使いを用いながら、入居者の尊厳に配慮した対応に努めている。また、接遇においては、日頃の業務の中で指導すると共に、会議等で検討し、職員全員が言葉使い・対応方法を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは利用者に対し、本人の思いや希望を表わしやすい働きかけを心掛け、できるだけ自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し、その日一日をどのように過ごしたいかを聞き、できるだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選んで洋服を着たり、スタッフが本人に着たい洋服を尋ねたりしている。また、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう配慮している。		

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める段階で希望を聞き、買い物・調理・配膳・片付け等も利用者と一緒に行っている。また、スタッフもできるだけ一緒に食事をするようにしている。	入居者の希望や能力に応じて、準備から片付けまで共同で行っている。献立においては、入居者の希望や嗜好を考慮して職員が作成している。定期的に行事を企画しており、外食の実施や特別食の提供を行い、食に対する楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣等に応じて、食事量・バランス・水分量が確保できるよう支援している。食事量・水分量については毎回チェックを行っている。ADL低下により自力摂取が困難な場合には、介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝前には、本人の能力に応じて、準備・見守り・介助を行い、口腔内の清潔が保持できるように支援している。		

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表へ毎回記録し、排泄パターンに変化が現れた場合には、それに応じた支援に変更している。また、介助が必要であっても、できるだけ排泄の自立にむけ、プライバシーに配慮しつつ、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間においては、必要に応じて声掛け・誘導を行い、適切な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等の運動をする、食物繊維の多いものや牛乳・ヨーグルトを摂る、できるだけ水分を多く摂るなどの工夫をしている。頑固な場合等は、医師の診察を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ一人ひとりの希望やタイミングに合わせながら、入浴を楽しめるような支援をしている。拒否などがあった場合には、時間をおいて声かけをしたり、次の日に入浴して頂くなど、個々にそった支援を行うようにしている。	入浴においては、入居者の希望に応じて、回数等柔軟に対応している。浴室には、転倒防止マット・エアコン・ヒーターが設置されており、安全で快適な入浴支援に配慮している。また、必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等を行い、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々希望に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。夜間眠れずに起きている方にはスタッフが長時間対応し、穏やかに眠れるように支援する、また、日中昼寝を希望される方には、休みたいときに休んで頂くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合等には連絡ノートに記入し、申し送りを行い、徹底した管理に努めている。一人ひとりの使用している薬の目的や副作用・用法・用量についてスタッフは理解するように努め、不明な点は看護師、医療機関、薬局に確認している。		

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、得意な事などを活かして、一人ひとりに役割ができるよう支援している。月1回外食をしたり、近隣の公園へ外出する、年1回は日帰り旅行をするなど気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって、外出できるような配慮をしている。可能な限りご家族の協力が得られるように働きかけ、普段は行けないような場所でも、出かけられるように支援している。	希望や天候に応じて、日頃から散歩・買い物等の外出支援が行われている。定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。また、柏市グループホーム連絡会にて、コンサート・バス旅等の合同行事が実施されており、戸外活動や外部との交流が盛んに行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり、本人より物品の購入希望があれば、家族の了承のもとにスタッフが買い物に同行し、できる限り自分で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へ電話したり、手紙を書いたりできるように支援している。希望はあるが困難な場合は、電話の際スタッフが代わりにダイヤルをしたり、代筆を行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節の花や行事の写真飾ったり、作品を展示したりするなど居心地の良い環境づくりに努めている。	施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保されている。リビングには、椅子やソファが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮している。また、施設内には、行事写真等が掲示され、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫している。施設敷地内には、家庭菜園があり、野菜作りや苗の手入れ等、入居者の生活の活性化に努めていると共に、玄関の外にベンチが設置され、お茶のみや日向ぼっこ等、気軽に外の空気を楽しめるよう工夫している。	

[千葉県] グループホーム 光ヶ丘の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にベンチを置き、一人になれたり友人と過ごせる場所を確保したり、庭で花や野菜づくりもできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、使い慣れた家具や好みの物を持ち込んで頂き、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。また、畳や絨毯等を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りが行われている。各居室にエアコンが設置されており、適切な空調管理が行われていると共に、鍵や収納スペースが設置されており、個々のプライバシーが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・トイレ・階段・浴室等に手すりを設置しており、安全に自立した生活が送れるように配慮している。		